西九州大学子ども学部紀要　第６号　105-110（2015）

研究ノート

小学校教育実習に関する実習校の成績評価と実習生の自己成績評価の相違に関する検討（２）

松本大輔・川上　貴・佐藤範男・松井克行

（西九州大学子ども学部子ども学科）

（平成27年１月13日受理）

A Consideration of Self-evaluation by Students with Evaluation by Schools in Practice Teaching of Elementary School Ⅱ

Daisuke MATSUMOTO and Takashi KAWAKAMI and Norio SATOU and Katsuyuki MATSUI

(*Department of Children's, Faculty of Children's Studies, Nishikyusyu University*)

(Accepted January 13, 2015)

Abstract

The purpose of this study is to consider of Self-evaluation by Students with Evaluation by Schools in Practice Teaching of Elementary School.

As the main result were two points.

1) Basic behavior and attitude toward practice teaching is lower evaluation by school than by self-evaluation.
2) The reflection of the class is low evaluation by school and by self-evaluation.

In this study, It was revealed that it was necessary to educate student teachers' abilities lesson plan and study on teaching materials in future.

Key words：Practice Teaching of Elementary School　小学校教育実習
Evaluation by School　実習校評価
Self-evaluation by Students　自己評価

Ⅰ．はじめに

地域との連携による教員養成を目指し，佐賀市と協定を結んだ本学の子ども学部においては，今後，一層，地域との結びつきを強くしていくために，実習指導の充実及び，実習参加に関する基準の設定と，送り出す実習生の質を高めるような指導を行う必要があろう。

そこで本研究では，平成26年６月に行われた小学校教育実習における受け入れ先の実習校に対しての成績評価と実習後の実習生の自己成績評価の結果を分析し結果を考察することで，今後の小学校教育実習指導改善への手がかりを得ることを目的とした。

Ⅱ．研究方法

１）調査対象

平成26年６月に佐賀市にて小学校教育実習を行った本学４年生72名（実習生）及び，佐賀市内の小学校教育実習受け入れ先28校（実習校）を対象とした。有効回答数は実習生より68名，実習校より28校，72名分であった。

２）調査内容

本調査では，実習校においては実習後，実習校から送られてきた実習生の教育実習の成績を判定する成績評価表を用いた。また実習生においては，実習直後，実習生が自ら自身の実習に対して自己評価という形で同じ成績評価表を自己成績評価表として用いた。成績評価表は，「基礎的事項」に関する４項目，「子ども理解及び学級経営」に関する４項目，「教科指導と学習評価」に関する10項目，「教科外の指導」に関する２項目の計20項目で構成されている（成積評価表は資料として付記した）。

３）分析方法

成積評価表の各20項目は「極めて良好である」を５，「良好である」を4,「基準は満たしている」を３，「やや不十分である」を２，「不十分である」を１と点数化し，統計処理による分析を行った。

Ⅲ．結果と考察

１）平成26年度の実習校の成績評価と実習校の自己成績評価から

表１は実習校の実習生72名分の成績評価と，実習生68名の自己成績評価の評点を評価観点及び合計得点として示したものである。

表１　平成26年度　実習校の成績評価と実習生の自己成積評価の評価観点及び評点合計に関する評点について

評価観点	実習校の成積評価の評点	自己成積評価の評点	t 値
基礎的事項（４項目）	17.32	18.22	−2.89**
子ども理解及び学級経営（４項目）	15.86	16.32	−1.37
教科指導と学習評価（10項目）	37.96	38.93	−1.19
教科外の指導（２項目）	7.74	8.04	−1.56
合計	78.87	81.51	−1.89+

（+p＜0.1，**p＜0.01）

表１から全ての評価観点及び合計得点から実習校側の評価のが自己評価よりも低いことが分析された。特に，実習に対する基礎的な姿勢や態度に関する「基礎的事項」においては有意に評点が低い（１％水準）。これらは実習生の実習に対する基礎的な姿勢や態度と実習校側の基礎的な姿勢や態度の認識の差異であると考えられる。この差異は今後の教育実習に対する大きな課題であると考えられる。それは，実習におけるもっとも基礎的な部分である実習に対する基礎的な姿勢や態度において実習生の“当り前”が実習校とズレていることを意味するからである。特に表２から「教職に対する使命感や責任感をもって，積極的に取り組むことができる」，「児童と積極的にかかわろうとすることができる」の２項目で有意に低い。両項目とも実習校からの評点が４点を超えていることから，決して実習校からの評価が低いとは言えないが，この調査とは別に行っている実習校からの意識調査の分析と合わせてそのズレについて明らかにし，指導について検討していく必要があろう。

また10％水準ではあるものの，評点合計に対しても実習校の評価が実習生の評価よりも有意に低いものとなっている。さらに20項目ごとに評点をまとめ分析したのが表２である。

表２から有意差が出た項目は，「基礎的事項」の「教職に対する使命感や責任感をもって，積極的に取り組むことができる」，「児童と積極的にかかわろ

表２　実習校と実習生の評価分析表

○目標達成状況及び得点について			
５．極めて良好である　４．良好である　３．基準は満たしている　２．やや不十分である　１．不十分である			
○達成目標	実習校 M（SD）	実習生 M（SD）	t 値
○基礎的事項			
1　教育実習の留意事項を全般的に守ることができる。	4.51（0.58）	4.54（0.61）	−0.3
2　教職に対する使命感や責任感をもって，積極的に取り組むことができる。	4.21（0.75）	4.54（0.68）	−2.77**
3　実習校教員と適切にコミュニケーションを取り，他の実習生と協力できる。	4.25（0.55）	4.4（0.65）	−1.45
4　児童と積極的にかかわろうとすることができる。	4.35（0.65）	4.73（0.51）	−3.9***
基礎的事項に関する得点（４～20）合計	17.32（1.89）	18.22（1.79）	−2.89**
○子ども理解及び学級経営			
1　児童の発達段階に応じて，コミュニケーションや対応ができる。	4.18（0.59）	4.1（0.73）	0.69
2　児童に公平に接し，児童を褒めること，叱ることができる。	3.85（0.64）	4.12（0.76）	−2.27*
3　担任教師が示す学級経営案について理解することができる。	3.99（0.52）	4.13（0.75）	−1.35
4　学級経営案の理解に基づき，児童を指導しようとすることができる。	3.85（0.46）	3.97（0.73）	−1.2
子ども理解及び学級経営に関する得点（４～20）合計	15.86（1.65）	16.32（2.31）	−1.37
○教科指導と学習評価			
◆学習指導の事前学習			
1　課題に応じて，学習指導案を積極的に作成しようとする。	3.96（0.74）	4.09（0.64）	−1.1
2　指導を受け入れ，学習指導案の改善を図ることができる。	4.12（0.69）	4.43（0.65）	−2.65**
◆学習指導の実施			
3　作成した学習指導案にしたがって，授業を展開することができる。	3.96（0.59）	3.79（0.66）	−1.55
4　作成した学習指導案にしたがって，学習評価を実施することができる。	3.5（0.6）	3.54（0.78）	−0.37
5　板書や発言，ノートの指導，あるいは実技指導を適切に行うことができる。	3.49（0.63）	3.6（0.71）	−1.03
6　児童の反応に適切に対応しながら，学習指導を行うことができる。	3.69（0.74）	3.73（0.8）	−0.31
7　学級経営を意識して，具体的な学習指導を行おうとすることができる。	3.66（0.56）	3.7（0.79）	−0.34
8　必要に応じて，授業記録等を適切に作成することができる。	3.93（0.56）	3.69（0.9）	−1.89+
◆学習指導の事後学習			
9　反省的考察の協議会等に参加し，積極的に意見を述べることができる。	3.76（0.68）	4.28（0.73）	−4.33***
10　授業・学習評価の改善について述べたり，レポートを書いたりできる。	3.87（0.68）	4.05（0.84）	−1.45
教科指導と学習評価に関する得点（10～50）合計	37.96（4.58）	38.93（5.06）	1.19
○教科外の指導			
1　教科外活動の目標や内容について理解する。	3.91（0.52）	3.98（0.72）	−0.64
2　教科外活動のいずれかにおいて学習指導案を作成し指導することができる。	3.82（0.59）	4.06（0.93）	−1.83
教科外の指導に関する得点（２～10）合計	7.74（0.92）	8.04（1.39）	−1.56
評点合計 秀（90点以上）　優（89～80点）　良（79～70点） 可（69～60点）　不可（60点未満）	78.87（7.76）	81.51（8.82）	−1.89+

（+p＜0.1，*p＜0.05，**p＜0.01，***p＜0.001）

うとすることができる」以外にも，「子ども理解及び学級経営」に関する４項目から，「児童に公平接し，児童を褒めること，叱ることができる」の１項目，「教科指導と学習評価」に関する10項目から「指導を受け入れ，学習指導案の改善を図ることができる」，「反省的な考察の協議会等に参加し，積極的に意見を述べることができる」の２項目の合計３項目である。この中で，全ての項目において，実習校の成績評価の評点の方が実習生の自己成績評価の評点よりも有意に低く，実習生自身の評価よりも，実習校が低く評価している項目であるといえる。また，有意な差はないものの，「児童の発達段階に応じて，

コミュニケーションや対応ができる」という項目以外は全て実習校の評点のほうが低いという評価となった。

その中で，教材研究，授業実践，実践の省察という知識の活用力を伴う実践的な力量に寄与する重要な力であると考えられる「指導を受け入れ，学習指導案の改善を図ることができる」,「反省的な考察の協議会等に参加し，積極的に意見を述べることができる」の項目が，実習校の成績評価の評点が実習生の自己成績評価の評点よりも有意に低い項目であるが，この項目は実習生の自己成績評価においては４点越える高得点項目である。これは，実習生と実習校側における，授業の見方や，授業に対する反省，またそれをどのように活かすかという省察の部分の質的な差異であると考えられる。これらの改善力や省察力に関する差異は，昨年度も同様の傾向であった。昨年度の傾向から小学校教育実習指導においても，模擬授業後の省察レポートの提出や，模擬授業参観者の授業参観レポートを，模擬授業演習の度に書かせ提出させてきたが，ただ形式的にレポートさせ提出させるのではなく，改善した授業を再度模擬授業として行わせて改善点を提示させるなど，その内容を今後質的に高める指導を行う具体的な対策の必要があると考えられよう。

また表２からは,「教科指導と学習評価」に関する項目の評点が他の評価観点の項目に比べ実習校の成績評価，実習生の自己成績評価ともに低いことも読み取れよう。これらも昨年と同様の傾向である。つまり授業力の育成は小学校教育実習指導の問題だけでなく，学科全体における教員養成の課題として，取り組むべき課題であるといえる。特に学習評価に関する項目と，板書や発言等の項目が，実習校，実習生ともに全項目の中で評点が最も低い項目となっている。指導と内容と評価の一体化という授業づくりの基本から考えれば，これらは単なる学習評価独自の問題としてではなく，教材研究や学習指導案作成等の授業づくりの中での問題として捉え，今後の小学校教育実習指導の中で指導内容として，各教科指導法の指導内容として学科全体のカリキュラムの問題として検討していく課題であろう。

これまでの表１及び表２から，平成26年度の小学校教育実習においては，また評価観点の評点，各評価項目，評点合計ともほとんどが実習生の自己成績評価よりも実習校の成績評価が低いということ，さらに「教科指導と学習評価」に関する項目の評点が他の評価観点の項目に比べ実習校の成績表，実習生の自己成績評価ともに低いことも読み取れた。これらを踏まえ省察力等を含む授業力に関する力を身につけさせていく事が重要であると考えられる。

２）平成25年度の実習校の成績評価と実習校の自己成績評価と平成26年度の実習校の成績評価と実習校の自己成績評価から

表３は平成25年度と26年度の実習校の成績評価における評価観点と合計評点の比較である。

表３からは有意差は認められなかったものの平成26年度の実習校の成績評価の評点の方が評価観点，合計評点ともに低いことが伺える。また表４は平成24年度と25年度の実習生の自己成績評価における評価観点と合計評点の比較である。

表４からは,「教科指導と学習評価」の観点以外は平成26年度の実習生の自己成績評価の評点の方が評価観点，合計評点ともに有意に高いこと明らかと

表３　平成25年度と26年度の実習校の成績評価比較

評価観点	平成25年度実習校の成績評価の評点	平成26年度実習校の成績評価の評点	t 値
基礎的事項（４項目）	17.7	17.32	−1.28
子ども理解及び学級経営（４項目）	16.06	15.86	−0.71
教科指導と学習評価（10項目）	38.91	37.96	−1.32
教科外の指導（２項目）	7.74	7.74	0,04
合計	80.4	78.87	−1.24

表４　平成25年度と26年度の実習生の自己成績評価比較

評価観点	平成25年度自己成績評価の評点	平成26年度自己成績評価の評点	t 値
基礎的事項（４項目）	17.59	18.22	1.7^{+}
子ども理解及び学級経営（４項目）	14.7	16.32	3.99^{***}
教科指導と学習評価（10項目）	37.51	38.93	1.37
教科外の指導（２項目）	7.48	8.04	2.26^{*}
合計	77.3	81.51	2.4^{*}

（$^{+}p<0.1$，$^{*}p<0.05$，$^{**}p<0.01$，$^{***}p<0.001$）

なった。つまり，表３及び表４からは実習校の成績評価においては全体的に低下していること，実習生の自己成績評価からは有意に高まっていることが理解された。また平成25年度，平成26年度との間で，実習校の成積評価と実習生の自己成績評価との評価関係においては実習校の成績評価は低下しているが実習生の自己成績表は高まっているという関係が伺えた。

以上の傾向は実習生の質の差異や，実習校における指導教員の評価基準に対する捉え方の差異等の問題として考えられ，一律な量的分析からは考察する事が難しい問題と考えられよう。今後，より詳細な分析やインタビュー及び記述等の質的な研究と併せて行う事で，小学校教育実習指導の指導内容の成果を考察する事が可能になると考えられる。ただ，実習校の成績評価の評点からは平成25年度，平成26年度ともに，「教科指導と学習評価」観点の項目の評点が他の項目に比べ低いことから，今後も，小学校教育実習指導の中で，指導案作成，教材研究等の授業計画力や実際の授業場面での指導力の向上をこれまで以上に取り組んでいく必要があると考えられる。

Ⅳ．おわりに

本研究では，平成26年６月に行われた小学校教育実習における受け入れ先の実習校に対しての成績評価と実習後の実習生の自己成績評価の結果を分析し考察することで，今後の小学校教育実習指導改善への手がかりを得ることを目的とした。

その中で，表１から全ての評価観点及び合計得点から実習校側の評価の方が自己評価よりも低いことが明らかとなった。特に，実習に対する基礎的な姿勢や態度に関する「基礎的事項」においては有意に評点が低く（１％水準），この差異は今後の教育実習に対する大きな課題であるといえよう。この調査とは別に行っている実習校からの意識調査の分析と合わせてそのズレについて明らかにし，指導について検討していく必要があろう。

表１及び表２から，平成26年度の小学校教育実習においては，また評価観点の評点，各評価項目，評点合計ともほとんどが実習生の自己成績評価よりも実習校の成績評価が低いということ，さらに「教科指導と学習評価」に関する項目の評点が他の評価観点の項目に比べ実習校の成績表，実習生の自己成績評価ともに低いことも読み取れた。これらを踏まえ今後も，小学校教育実習指導の中で，指導案作成，教材研究等の授業計画力や実際の授業場面での指導力の向上をこれまで以上に取り組んでいく必要があると考えられる。

本研究は継続的に行う事により意味のある研究であると考えられる。次年度以降においても教育実習後の評価の相違を分析する事で実習校が求められる小学校教育実習生としての力量を小学校教育実習指導の中で育成するような小学校教育実習指導の指導内容を検討する事が可能になると考えられる。そのためにも，継続的に基礎的なデータを蓄積する事，分析されたデータと小学校教育実習指導の指導内容の成果と課題をより詳細に考察ができる調査内容を検討する事が今後の課題であると考えられる。

付録　成績評価表

○目標達成状況及び得点について	
以下に記す目標達成の状況に応じて，５～１のいずれかに○を付す。その後，各項目の得点を合計し，「合計」欄に合計点を記入する。 ・５点　（極めて良好）・４点　（良好） ・３点　（基準は満たしている）・２点　（やや不十分）・１点　（不十分）	
○基礎的事項	達　成　状　況
1　教育実習の留意事項を全般的に守ることができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
2　教職に対する使命感や責任感をもって，積極的に取り組むことができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
3　実習校教員と適切にコミュニケーションを取り，他の実習生と協力できる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
4　児童と積極的にかかわることができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
基礎的事項に関する得点（４～20）	合計　　点
○子ども理解及び学級経営	
1　児童の発達段階に応じて，コミュニケーションや対応ができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
2　児童に公平に接し，児童を褒めること，叱ることができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
3　担任教師が示す学級経営案について理解することができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
4　学級経営案の理解に基づき，児童を指導することができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
子ども理解及び学級経営に関する得点（４～20）	合計　　点
○教科指導	達　成　状　況
◆学習指導の事前学習	
1　課題に応じて，学習指導案を積極的に作成しようとする。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
2　指導を受け入れ，学習指導案の改善を図ることができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
◆学習指導の実施	
3　作成した学習指導案にしたがって，授業を展開することができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
4　作成した学習指導案の評価項目にしたがって，学習評価に取りくむことができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
5　板書や発言，ノートの指導，あるいは実技指導を適切に行うことができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
6　児童の反応に適切に対応しながら，学習指導を行うことができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
7　学級経営を意識して，具体的な学習指導を行おうとすることができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
8　必要に応じて，授業記録等を適切に作成することができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
◆学習指導の事後学習	
9　反省的考察の協議会等に参加し，積極的に意見を述べることができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
10　授業を振り返り，改善点について述べたり，レポートを書くことができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教科指導と学習評価に関する得点（10～50）	合計　　点
○教科外の指導	
1　教科外活動の目標や内容について理解する。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
2　教科外活動のいずれかにおいて学習指導案を作成し指導をすることができる。	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教科外の指導に関する得点（２～10）	合計　　点